

文化におけるサギ

佐原雄二（弘前大学農学生命科学部）・松長克利（北海道アオサギ研究会）

鳥類は自然科学的研究の対象であるばかりではありません。人間は、歴史の中で様々な形で鳥類とかかわり、鳥にまつわる文化を育て上げてきました。

ここではサギ類を主題に、人の文化史におけるサギ類の様々な様相について語りあおうという趣旨です。とにかくサギ好きの方、鳥にまつわる雑学の好きな方、お集まりください。

< 話題提供者と話題の表題 >

サギ、とりわけアオサギ好きを自認する次の二人が話題を提供します。それぞれに自説を開陳しますので、それを聞いて楽しんでくだされば幸甚です。議論に加わっていただけたら一層嬉しく思います。

佐原雄二

- 1．西欧文学と日本文学におけるアオサギ観の違いと、その理由についての考察。
- 2．なぜ、アオサギはかつて「妖怪」だったのか？考えられる4つの理由。

松長克利

- 1．アオサギの名前についての考察と、「サギ」の呼称についての自説の紹介。
- 2．神話、民話、宗教、狩猟・食文化などにおける「アオサギに対する見方」の古今東西の比較。